

編	集
後	期

▼現代宗教研究所の研究誌『現代宗教研究』第十四号をおとどけいたします。本号は、「第十二回中央教化研究会議」のまとめ報を特集いたしました。

▼教化研究は、教師の主體的・自覚的な信仰求道活動であります。信仰求道への内なる誓願と外なる実践は教化研究を通して具現される、といえましょう。それは、教師が真に信仰主体として自らを鍛え、仏祖の教えをひろめ、異体同心を本當に強めながら教団形成をめざしていく道を開拓する根本でもあります。現代に「日蓮一門」を再生させてゆこう。行学二道と教化実践をつねに休みなく前進させてゆこう——この誓願に終わりはありません。

▼本号の特集は、これらの誓願を七百遠忌を眼前にして祖廟に捧げ、教化研究への決意を明らかにした足跡の要旨です。たんなる、まとめ報告集に終わらせることなく、この研究誌をぜひ活用していただき、教化研究にとりくむ時の参考にしてもらいたい、と念じております。なにとぞ、ご笑覧下さり、ご教示・ご叱正のほどお願いいたします。

▼本号の発行に当り、会議の運営に尽力していただいた各聖より、まとめ報告・分科会要旨および感想文を頂戴しました。ご多用にもかかわらず玉稿をお寄せ下さり心から感謝申し上げます。また、ほんらい会議全体を詳細に報告すべき所ではありますが、各聖のご挨拶・感想ならびに参加者一覧などは紙数の都合で割愛せざるをえませんでした。何卒ご寛恕の程よろしくお願い致します。

(石川教張)